

第3回松江市街地内水対策検討会 議事要旨

【日 時】平成21年7月1日(月) 13:30～15:30

【場 所】島根県市町村振興センター6階 大会議室1

1. 松江市街地内水解析条件の確認

- ・松江堀川の計画高水位をT.P.+1.50mからT.P.+1.30mに変更
- ・許容湛水位を、内水河川(天神川、松江堀川)の計画高水位と同程度で、かつ床上浸水被害が解消され、床下浸水被害が軽減される水位(橋北地区:T.P.+1.30m、橋南地区:T.P.+1.40m)に変更
- ・内水解析は、斐伊川治水3点セット及び朝酌川、内水河川河道改修が全て完了した場合(河道条件A)と、ダム・放水路が完成し、宍道湖・大橋川の築堤護岸、水門整備が完了した場合(河道条件B)の2ケースで実施

2. 解析結果の報告

- ・橋北地区は(河道条件A)では既存内水排除ポンプで対応可能、(河道条件B)では内水排除ポンプを5m³/s程度追加する必要がある、橋南地区は下流側の本川水位が低いため、上流側の水門を閉鎖することで内水を自然排水することが可能、という結果となった

3. 今後の検討事項

- ・橋南地区の下水道計画との整合

天神川流域の内水対策については、昭和47年7月豪雨(実績)に対しての浸水被害軽減を目標としている。松江市下水道雨水排水区域についても昭和47年7月豪雨(実績)対応レベルの整備(幹線整備)が可能か?(事務局)

下水道雨水排水は、確率規模 1/10 年を基に合理式により流出量を決定し整備している。大橋川に流れ込む下水道は、大橋川の改修が途上のため、整備は中断している。天神川へ流れ込む下水道は完成している。補助事業として整備途上であるため、機能アップは困難である。(市)

今後、統合型氾濫解析モデル(橋北地区と同じモデル)により、今回の解析結果を検証する予定だが、このモデルは下水道雨水排水区域も取り込んでいるため、浸水範囲等を確認したい。(事務局)

- ・今後の河川整備と河道条件について

内水氾濫は本川(宍道湖・大橋川(支川朝酌川))水位の影響を受けるため、大橋川改修に応じて内水対策を実施することになる。逆に内水対策箇所を考慮した河道改修計画を検討することができ、優先順位が分りやすくなる。(出雲河川事務所)

斐伊川水系河川整備計画では、大橋川の外水対策として築堤等を行うので、外水対策と今回の内水対策をセットで行っていきと説明していくことが望ましい。また、今後20～30年では、斐伊川水系河川整備基本方針レベル(斐伊川治水3点セット完成)までは到達しないため、内水対策は河道条件Bで検討することが良い。(市)

・ 二次内水対策について

土地利用規制について、黒田地区は、T.P.+2.0m で造成しても 70 cm沈下するような軟弱地盤であり、開発時の審査では問題なくても、その後浸水被害が生じることになり条件設定が難しい。(市)

土地利用規制をかけることは良いと思われるが、ハザードマップのように土地の値段が下がるなど、懸念材料はある。(市)

情報がないまま低平地に住宅を建てる人もいるため、行政側としては、積極的に情報を提供していくべきである。(出雲河川)

黒田地区では、以前市街化調整区域の指定を解除したため、宅地化が進行した経緯がある。(市)

4. 今後の予定

- ・ 次回検討会は10～11月頃を予定している。